

平成26年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月4日

上場会社名 アクモス株式会社

上場取引所 東

コード番号 6888 URL <http://www.acmos.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 秀幸

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画室長 (氏名) 中川 智章

TEL 03-5217-3121

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年6月期第2四半期の連結業績(平成25年7月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年6月期第2四半期	1,452	22.7	△103	—	△101	—	△98	—
25年6月期第2四半期	1,184	△9.7	△61	—	△61	—	△60	—

(注) 包括利益 26年6月期第2四半期 △101百万円 (—%) 25年6月期第2四半期 △65百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年6月期第2四半期	△10.19	—
25年6月期第2四半期	△6.20	—

(注) 当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。そのため、1株当たり四半期純利益の金額は、前連結会計年度の期首に当該分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年6月期第2四半期	2,350	1,411	59.0
25年6月期	2,315	1,491	64.4

(参考) 自己資本 26年6月期第2四半期 1,386百万円 25年6月期 1,491百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年6月期	—	0.00	—	100.00	100.00
26年6月期	—	0.00	—	—	—
26年6月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。平成25年6月期については、当該分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成26年6月期の連結業績予想(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,500	31.7	80	—	80	—	50	—	5.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 有

(注)詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年6月期2Q	10,215,400 株	25年6月期	10,215,400 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年6月期2Q	515,900 株	25年6月期	515,900 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年6月期2Q	9,699,500 株	25年6月期2Q	9,699,500 株
----------	-------------	----------	-------------

(注)当社は、平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。そのため、期末発行済株式数、期末自己株式数、期中平均株式数は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成25年12月31日)における我が国経済は、新政権主導による金融政策や経済対策により、株価の上昇や個人消費の改善がみられ、緩やかな景気回復傾向が続きましたが、平成26年4月からの消費税率引き上げや、新興国経済の成長鈍化など景気に対するマイナス材料もあり、先行きは依然不安定な状態が続いております。当社の主要事業である情報技術事業においても、企業のシステム更新や設備投資の再開などにより緩やかな回復が見られておりますが、市場内の競合や顧客からの単価引き下げ要求もあり、厳しい事業環境が続いております。

このような事業環境の中、当社グループでは当連結会計年度からの3カ年における中期経営計画を策定いたしました。この3年間で再生から成長、創造への期間と位置づけ、3カ年でサービス価値の向上を図り、持続的・創造的イノベーションを可能とする事業基盤を構築するとともに、安定収益の確保を目指してまいります。

我が国の社会インフラシステムは老朽化による更新需要が高まっております。また、情報サービス市場構造における「所有」から「利用」へのシフトに伴うクラウドサービスの市場規模拡大や、急速に普及が進むスマートデバイスのビジネスユース市場の拡大が見込まれております。

当第2四半期連結累計期間では、これらの拡大が見込まれる市場を考慮しつつ、当社グループが強みを持つ分野を絞り、品質向上と人材育成による専門性の強化により受注拡大を図ってまいりました。

当第2四半期連結累計期間では、前連結会計年度の平成25年6月1日に株式会社昭文社デジタルソリューションの事業の一部を吸収分割により取得し事業を開始したA S ロカス株式会社(旧社名アクモス・アカウンティング株式会社)の業績が加わっておりますが、当社とA S ロカス株式会社との間で人材交流を行うとともに、共同でスマートデバイスに関する製品開発を行い、業務における協力関係の強化も図っております。この製品開発にあたっては当社が「平成24年度補正 ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」に採択され、補助金を活用した開発を行っております。

当第2四半期連結累計期間の売上高はA S ロカス株式会社の実績が加わったことなどにより前第2四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成24年12月31日)に比べ268百万円増加し1,452百万円(前第2四半期連結累計期間の売上高は1,184百万円、前年同四半期比22.7%増)となりましたが、当社とA S ロカス株式会社で営業損失を計上したことなどから前年同四半期に対して損失は増加し、営業損失103百万円(前第2四半期連結累計期間は営業損失61百万円)、経常損失101百万円(前第2四半期連結累計期間は経常損失61百万円)、四半期純損失98百万円(前第2四半期連結累計期間は四半期純損失60百万円)となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりです。

(ITソリューション事業)

当第2四半期連結累計期間の期首より、A S ロカス株式会社が前連結会計年度の平成25年6月1日に吸収分割により取得した事業の業績が含まれております。

当社の当第2四半期連結累計期間の状況は、システム運用の受注は順調に推移いたしました。社会インフラシステムの開発案件を中心に受注が落ち込みました。又、A S ロカス株式会社では地図情報に関するデータ入力業務の受注が計画を下回っております。A C M O S ソーシングサービス株式会社では、一部案件で完了時期が第3四半期に延び、売上高が計画を下回っておりますが、既存案件を中心に順調に推移し、前年同期の実績は上回りました。

当第2四半期連結累計期間では、当社のシステムインテグレーションのノウハウとA S ロカス株式会社のGIS(注)ソリューションに関するノウハウを結集し、今後のスマートデバイスソリューションの展開を目指した開発を進めております。

当社において開発を行った通信指令システム(SYMPROBUS Fシリーズ)についてはCTI等を活用した特色を出して営業展開を図っております。A S ロカス株式会社とも協力し、スマートデバイスの開発提案を絡めて営業活動を展開いたしました。

ACMOSソーシングサービス株式会社では、強みである医療システム分野を中心に社員教育を進め、業務知識の取得と技術力向上に努めました。また、営業面では千葉県に営業所を開設し、千葉県方面の事業拡大に向けて営業活動を展開いたしました。新規案件の引き合いも頂いておりますが、技術者の不足により対応が困難な案件もでてきており、人材採用を進めております。

当第2四半期連結累計期間のITソリューション事業の売上高はASロカス株式会社が加わった要因により1,284百万円(前第2四半期連結累計期間の売上高は1,096百万円、前年同四半期比17.2%増)、営業損失97百万円(前第2四半期連結累計期間は営業損失39百万円)となっております。

なお、平成25年7月1日付で、ASロカス株式会社の発行済株式総数の19%を株式会社昭文社に譲渡いたしました。ASロカス株式会社では株式会社昭文社のWEB運用業務を受託しており、引き続き営業面での関係強化を図ってまいります。

(注) GIS:地理情報システム(Geographic Information System)

(ITサービス事業)

株式会社エクスカルは、国内メーカーのスマートフォン製造からの撤退やAndroid OSの大きなバージョンアップがなかったこともあり規格認定の事業環境は厳しい状態が続きましたが、無線LAN機器の検証サービスを中心として、新しい規格であるECHONET LiteやUSB3.0の規格に関連する試験機関としての体制を整備し事業展開を図りました。なお株式会社エクスカルは前連結会計年度の平成25年6月26日に100%子会社となったことから、前連結会計年度末で持分法適用関連会社から連結子会社となっております。

株式会社ジイズスタッフは、個々の案件は少額なものの、新規案件の受注が順調に推移いたしました。当第2四半期連結累計期間では、ひとつの業務から他のお客様の業務へ標準化が容易な事務局代行事業のパッケージ化や、アンケート事業の業務プロセスの整理・適正化を進めました。また、各ソリューションに特化したwebサイトの展開とアウトバウンド営業によるPUSH型の営業体制の構築を進めました。人員体制については引き続き人材採用を行い、業務担当者の増強と営業専任担当者の確保に努めました。

当第2四半期連結累計期間のITサービス事業の売上高は205百万円(前第2四半期連結累計期間の売上高は134百万円、前年同四半期比52.3%増)、営業利益14百万円(前第2四半期連結累計期間は営業損失1百万円)となっております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べ35百万円増加し、2,350百万円となりました。これは売掛金が27百万円、商品が55百万円、仕掛品が127百万円増加した一方、現金及び預金が137百万円、未収入金が31百万円減少したことが主な要因であります。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べ115百万円増加し、939百万円となりました。これは、未払費用が92百万円、前受金が26百万円減少した一方、買掛金が28百万円、短期借入金が143百万円、1年内返済予定の長期借入金が17百万円、長期借入金が46百万円増加したことが主な要因であります。

なお、短期借入金の増加は、ASロカス株式会社の運転資金及び当社の受注案件に伴う資金需要に対するものであります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べ80百万円減少し、1,411百万円となりました。これはASロカス株式会社の株式売却によって発生した少数株主持分24百万円の増加及び四半期純損失98百万円並びに配当金9百万円が主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末と比較して122百万円減少し、873百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の減少は323百万円(前年同期は118百万円の資金の減少)となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失99百万円、棚卸資産の増加額182百万円、未払費用等その他の負債の減少額106百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の増加は7百万円(前年同期は8百万円の増加)となりました。これは主に定期預金の預入及び払戻による純収入14百万円、子会社株式の売却による収入35百万円並びに、有形及び無形固定資産の取得による支出43百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は192百万円(前年同期は33百万円の減少)となりました。これは主に短期借入による純収入143百万円、長期借入による純収入63百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年8月2日付の決算短信で発表いたしました平成26年6月期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

前連結会計年度まで、部門の労務費のうち直接製造に携わらなかった部分の費用については販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、第1四半期連結累計期間より当該費用を売上原価として計上しております。これは、稼働率による製造原価の変動を排除し、売上高と売上原価の対応に関して経営成績の実態をより適正に表示するため変更するものであります。

これにより、当第2四半期連結累計期間の売上原価が66,431千円増加し、売上総利益及び販売費及び一般管理費がそれぞれ66,431千円減少しております。

なお、当変更について遡及適用しており、前第2四半期連結累計期間については遡及適用後の四半期連結財務諸表となっております。これにより、前第2四半期連結累計期間の売上原価が65,288千円増加し、売上総利益及び販売費及び一般管理費がそれぞれ65,288千円減少しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,161,903	1,024,115
受取手形及び売掛金	414,718	442,229
商品	1,878	57,018
仕掛品	35,558	163,131
原材料及び貯蔵品	434	315
前払費用	44,068	47,465
短期貸付金	2,916	3,260
繰延税金資産	15,583	15,532
その他	38,485	9,034
貸倒引当金	△2,525	△1,977
流動資産合計	1,713,021	1,760,125
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	233,436	238,229
減価償却累計額	△123,416	△127,212
建物及び構築物(純額)	110,019	111,016
工具、器具及び備品	132,576	145,158
減価償却累計額	△61,465	△73,986
工具、器具及び備品(純額)	71,110	71,171
土地	68,836	68,836
有形固定資産合計	249,966	251,024
無形固定資産		
のれん	196,477	166,594
ソフトウェア	80,709	77,650
その他	1,481	15,540
無形固定資産合計	278,668	259,785
投資その他の資産		
投資有価証券	25,842	32,055
敷金及び保証金	41,179	41,210
長期貸付金	6,891	5,399
その他	297	1,333
貸倒引当金	△6	△5
投資その他の資産合計	74,204	79,993
固定資産合計	602,840	590,803
資産合計	2,315,861	2,350,929

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	68,513	97,206
短期借入金	80,000	223,337
1年内返済予定の長期借入金	38,750	55,848
未払金	108,062	93,085
未払費用	211,826	118,886
未払法人税等	10,705	7,404
賞与引当金	17,038	31,036
前受金	49,601	23,250
その他	35,423	40,366
流動負債合計	619,920	690,422
固定負債		
長期借入金	80,000	126,507
長期前受金	8,478	6,095
退職給付引当金	66,384	69,578
繰延税金負債	27,151	29,096
その他	21,949	17,600
固定負債合計	203,964	248,877
負債合計	823,885	939,300
純資産の部		
株主資本		
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,176,282	1,176,282
利益剰余金	△330,302	△438,799
自己株式	△53,911	△53,911
株主資本合計	1,485,318	1,376,821
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,657	10,170
その他の包括利益累計額合計	6,657	10,170
少数株主持分	—	24,638
純資産合計	1,491,976	1,411,629
負債純資産合計	2,315,861	2,350,929

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)
売上高	1,184,035	1,452,419
売上原価	877,491	1,099,537
売上総利益	306,543	352,881
販売費及び一般管理費	367,611	456,287
営業損失(△)	△61,067	△103,406
営業外収益		
受取利息及び配当金	531	532
保険配当金	3,089	3,334
助成金収入	207	—
その他	1,237	1,024
営業外収益合計	5,066	4,890
営業外費用		
支払利息	2,150	2,503
持分法による投資損失	3,134	—
その他	12	26
営業外費用合計	5,297	2,530
経常損失(△)	△61,298	△101,045
特別利益		
子会社株式売却益	—	4,562
特別利益合計	—	4,562
特別損失		
固定資産除却損	78	96
特別退職金	—	2,457
特別損失合計	78	2,553
税金等調整前四半期純損失(△)	△61,377	△99,036
法人税、住民税及び事業税	3,839	5,777
法人税等調整額	423	51
法人税等合計	4,262	5,828
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△65,640	△104,865
少数株主利益	△5,548	△6,067
四半期純損失(△)	△60,091	△98,797

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△65,640	△104,865
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	498	3,512
その他の包括利益合計	498	3,512
四半期包括利益	△65,141	△101,353
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△59,592	△95,285
少数株主に係る四半期包括利益	△5,548	△6,067

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△61,377	△99,036
減価償却費	14,232	31,668
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△273	△549
賞与引当金の増減額(△は減少)	7,144	13,998
退職給付引当金の増減額(△は減少)	—	3,193
のれん償却額	27,882	29,882
受取利息及び受取配当金	△531	△532
支払利息	2,150	2,503
子会社株式売却損益(△は益)	—	△4,562
固定資産除却損	78	96
持分法による投資損益(△は益)	3,134	—
売上債権の増減額(△は増加)	14,209	△56,235
たな卸資産の増減額(△は増加)	△77,169	△182,593
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,995	27,288
その他	△30,186	△80,208
小計	△102,699	△315,084
利息及び配当金の受取額	548	533
利息の支払額	△2,280	△2,320
法人税等の支払額	△14,491	△6,624
営業活動によるキャッシュ・フロー	△118,922	△323,497
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△4,800	△4,800
定期預金の払戻による収入	9,600	19,600
有形固定資産の取得による支出	△5,084	△19,598
無形固定資産の取得による支出	△5,500	△23,966
敷金及び保証金の差入による支出	△54	△75
敷金及び保証金の回収による収入	7	44
出資金の払込による支出	—	△10
子会社株式の売却による収入	—	35,268
貸付けによる支出	—	△600
貸付金の回収による収入	14,043	1,747
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,212	7,609
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	143,337
長期借入れによる収入	—	100,000
長期借入金の返済による支出	△22,500	△36,395
配当金の支払額	△9,244	△9,699
リース債務の返済による支出	△1,626	△4,348
財務活動によるキャッシュ・フロー	△33,370	192,893

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△144,080	△122,994
現金及び現金同等物の期首残高	1,052,216	996,390
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△57,061	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	851,074	873,396

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において流動資産の「未収入金」、無形固定資産の「電話加入権」及び流動負債の「預り金」は独立掲記しておりましたが、明瞭性を高める観点から表示科目の見直しを行い、当第2四半期連結累計期間よりそれぞれ流動資産の「その他」、無形固定資産の「その他」及び流動負債の「その他」に含めて表示しております。

この結果、前連結会計年度の流動資産の「未収入金」35,262千円は、流動資産の「その他」として、無形固定資産の「電話加入権」1,481千円は、無形固定資産の「その他」として、流動負債の「預り金」25,405千円は、流動負債の「その他」として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前第2四半期連結累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローの「その他の資産の増減額(△は増加)」及び「その他の負債の増減額(△は減少)」はそれぞれ総額表示しておりましたが、重要性の低い項目であることから当第2四半期連結累計期間より「その他」として純額表示しております。また、財務活動によるキャッシュ・フローの「短期借入による収入」及び「短期借入金の返済による支出」はそれぞれ総額表示しておりましたが、借入期間が短く、かつ回転が早い項目であるため、当第2四半期連結累計期間より「短期借入金の純増減額(△は減少)」として純額表示しております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の「その他の資産の増減額(△は増加)」19,776千円及び「その他の負債の増減額(△は減少)」△49,962千円は営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」△30,186千円として、「短期借入による収入」60,000千円及び「短期借入金の返済による支出」△60,000千円は、「短期借入金の純増減額(△は減少)」一千円として組み替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ITソリューション事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,049,334	134,700	1,184,035	—	1,184,035
セグメント間の内部売上高 又は振替高	46,733	—	46,733	△46,733	—
計	1,096,068	134,700	1,230,768	△46,733	1,184,035
セグメント損失(△)	△39,341	△1,528	△40,870	△20,197	△61,067

(注) セグメント損失(△)の調整額△20,197千円には、報告セグメントに配分していない全社費用△20,172千円、その他の調整額△24千円を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ITソリューション事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,247,263	205,115	1,452,419	—	1,452,419
セグメント間の内部売上高 又は振替高	37,632	—	37,632	△37,632	—
計	1,284,895	205,155	1,490,051	△37,632	1,452,419
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△97,316	14,801	△82,515	△20,890	△103,406

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△20,890千円には、報告セグメントに配分していない全社費用△20,948千円、その他の調整額58千円を含んでおります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。